

## えびの高原の植生

火山活動と火山ガスをよそに、えびの高原では驚くほど多種多様な植物が、根を張るだけでなく、生い茂っています。この多様性の秘密は、微妙に変わりゆく空気と土壌の質にあります。火口近くでは育たない植物も、ほんのすこし離れたところでは繁茂することがあるのです。

ミズナラ、ブナ、カエデなど、3つの火口湖をめぐる自然道には高木が立ち並んでいます。さらに進むと、川湯の周りではこれらの木々はまばらになり、代わりに粗悪な土壌にも耐えるアカマツが森林を占領しています。硫黄山に近づくとも土壌の質はさらに劣化し、アカマツもまばらになります。

車道をさらに上に進んで行くと、つつじヶ丘 (*Azalea Hill*) があります。ここではミヤマキリシマツツジのほか、リウウギやその他の低木が育ちます。ここからは土壌の質がさらに低下し、代わってススキが見られます。最初の方では繁茂していますが、火山に近づくにつれて段々まばらになっていきます。

火口付近ではススキも消え、コケのような地被植物があらわれます。活火山である硫黄山のすぐ側では、植物はほぼ皆無です。

## 写真のキャプション (右から左、下から上)

かつて岩だらけの荒野だった地に繁茂する森林。

土壌の質が悪化するなか育つ、ミヤマキリシマツツジや小さな樹木。

土壌が浅くなり、生い茂るススキ。

土壌の質が低下し、まばらになるススキ。

コケでできた土壌に育つ草。

岩の割れ目やくぼみに生えるコケ。他の全植物が苦戦する中、どんなに厳しい環境でも育つ術を見つけるのがコケです。